超高齢社会における不安の構造 第2報
—サービス付き高齢者住宅と近隣の助け合い意識調査より

大 橋 美 幸

I. はじめに

前報1)において超高齢社会の「不安」の一つとして認知症を取り上げ、不安の構造を考察した。認知症についてよく理解している人の方が不安を感じており、認知症の人と関わって困った経験が、自分自身も「認知症になるかもしれないし、なったら困る」という不安に影響していることが考えられた。

本報では、サービス付き高齢者住宅と、近隣の助け合いを取り上げ、これらが超高齢社会の「不安」の解消につながるのかを考察する。サービス付き高齢者住宅は、バリアフリーに少なくとも安否確認、生活相談のサービスをつけた住宅であり、介護や医療などの付属していないサービスは必要に応じて外から利用する。登録制であり、2011年度に制度化された。介護保険施設に代わる新たな住まいとして、社会福祉法人だけでなく幅広い民間事業者の参入が期待されている。2012年介護保険改正で進められる定期巡回・随時対応サービスなどと合わせて超高齢社会を支えることが想定されている2）。近隣の助け合いについては、市民が認知症に対する理解を深め、認知症の人や家族を地域で支えていくために認知症サポーター養成研修が行われている。半日程度の研修が全国で行われており、受講料は無料3)。「認知症サポーター」は資格ではなく、自発的にボランティアとして認知症の人や家族を支えていくことが求められる。

二種類の調査を行う。サービス付き高齢者住宅の意識調査、近隣の助け合
いの意識調査であり、ともに認知症に関する講演会参加者を対象にアンケート調査を行う。認知症について理解している人が不安に感じており、認知症の人に関わった経験が影響していることから、認知症に関心を持つ人に対して調査を行い、認知症の人に関わった経験によって比較を行う。

II. サービス付き高齢者住宅の意識調査

1. 調査概要

2011年6月、認知症に関する講演会参加者を対象にアンケート調査を行った。参加者は北海道の道南地区における認知症介護家族会8団体のボランティアである。ボランティアは介護家族、介護職員、行政職員、認知症に関心のある一般市民などを含んでおり、必ずしも認知症の介護経験があるわけではない。

アンケートは講演会資料と共に配布し、講演会終了後、出口で回収した。アンケート項目は回答者基本属性（年齢、性別）、認知症の人の介護経験、介護保険サービスの認知度、特別養護老人ホーム・グループホーム・サービス付き高齢者住宅などへの入所意識、行ったことのある施設数などである[資料II-1]。なお、サービス付き高齢者住宅は2011年度に創設されたものでなじみがないことから、有料老人ホーム・ケアハウスと併記した。サービス付き高齢者住宅は高齢者すまい法、有料老人ホーム・ケアハウスは老人福祉法に基づく施設であるが、これらとも介護保険の在宅扱いもしくは特定施設入居者生活介護となり類似する点が多い。有料老人ホームなどと併記することである、特別養護老人ホームやグループホームとは異なる新たな類型として、サービス付き高齢者住宅がイメージしやすいと考える。

2. 回答者基本属性

配布数90、回収数77、回収率85.6％であった。

男性4人（5.3%）、女性71人（94.7%）。女性が圧倒的である。
年齢は21～85才、49歳以下1人（1.3%）、50代14人（18.2%）、60代34人（44.1%）、70代26人（33.8%）、80才以上2人（2.6%）であった。60代・70代で8割近くをしめる[図II-1]。

図II-1 サービス付き高齢者住宅の意識調査：回答者基本属性（年齢）

認知症の人の介護経験は75人中「現在、家族を介護している」26人（34.7%）、「以前、家族を介護していた」23人（30.7%）、「仕事で関わっている」7人（9.3%）、「その他」3人（4.0%）、「介護をした経験はない」20人（26.7%）であった[図II-2]。家族介護の中の人が多いが、介護経験がない人も1/4以上いる。

「現在、家族を介護している」うち3人、「以前、家族を介護していた」うち1人は「仕事」でも関わっていた。「仕事で関わっている」は介護職員、保健師、ケアマネジャー、施設経営者などであった。「その他」はボランティアなどであった。

50代までで「仕事で関わっている」が他年代と比較して多く、70代以降で「介護をした経験はない」が多くなっていた[表II-1]。

3．介護保険や施設の認知度

介護保険の認知度は74人中「よく知っている」25人（33.8%）、「知っている」35人（47.3%）、「あまり知らない」14人（18.9%）であった[図II-3]。
図Ⅱ-2 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
回答者基本属性（認知症の介護経験）

表Ⅱ-1 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
回答者基本属性（年代と認知症の介護経験）

<table>
<thead>
<tr>
<th>年代</th>
<th>認知症の介護経験</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>現在、家族を介護している</td>
<td>以前、家族を介護していた</td>
</tr>
<tr>
<td>50代まで</td>
<td>6人(39.9%)</td>
<td>4人(26.7%)</td>
</tr>
<tr>
<td>60代</td>
<td>14人(45.1%)</td>
<td>10人(32.3%)</td>
</tr>
<tr>
<td>70代以上</td>
<td>3人(11.5%)</td>
<td>8人(30.8%)</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>23人(31.9%)</td>
<td>22人(30.6%)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

図Ⅱ-3 サービス付き高齢者住宅の意識調査：介護保険の認知度
認知症の介護経験で比較すると、「現在、家族を介護している」「仕事で関わっている」人は比較的良く介護保険を知っており、「介護をした経験がない」人で「あまり知らない」が多くなっていた [表II-2]。年代が若いほど介護保険をよく知っている傾向が見られたが、これは70代以降で「介護をした経験がない」人が多いことが影響していると考えられる [表II-3]。

<table>
<thead>
<tr>
<th>介護保険の認知度</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>よく知らない</td>
<td>知っている</td>
</tr>
<tr>
<td>現在、家族を介護している</td>
<td>15人 (57.7%)</td>
</tr>
<tr>
<td>以前、家族を介護していた</td>
<td>5人 (23.8%)</td>
</tr>
<tr>
<td>仕事で関わっている</td>
<td>7人</td>
</tr>
<tr>
<td>介護した経験はない</td>
<td>2人 (10.0%)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表II-3 サービス付き高齢者住宅の意識調査：介護保険の認知度と年代

<table>
<thead>
<tr>
<th>介護保険の認知度</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>よく知らない</td>
<td>知っている</td>
</tr>
<tr>
<td>50代まで</td>
<td>8人 (57.2%)</td>
</tr>
<tr>
<td>60代</td>
<td>12人 (36.4%)</td>
</tr>
<tr>
<td>70代以降</td>
<td>5人 (18.5%)</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>25人 (33.8%)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

見学したり、入居や短期入所を利用したことがある（デイサービス利用を除く）、または仕事で入居や短期入所に関わったことのある施設数は、特別養護老人ホームで0〜5施設、グループホーム0〜10施設、有料老人ホーム・ケアハウス・サービス付き高齢者住宅0〜5施設であった。

特別養護老人ホームは55人中「0施設」つまり行ったことがない9人（16.4％）、「1施設」29人（52.7％）、「2施設以上」17人（30.9％）。1施設
の人が半数近くいる。

グループホームは「0施設」つまり行ったことがない20人（36.4%）、「1施設」11人（20.0%）、「2施設以上」24人（43.6%）。2施設以上の人も4割を超える。

有料老人ホーム・ケアハウス・サービス付き高齢者住宅は「0施設」つまり行ったことがない34人（61.8%）、「1施設」12人（21.8%）、「2施設以上」9人（16.4%）。行ったことがない人が6割である【図II-4】。

図II-4 サービス付き高齢者住宅の意識調査：行ったことのある施設数

いずれも「仕事で関わっている」人で行ったことがある施設数が多い傾向が見られた。特別養護老人ホームで、年代が若いほど行ったことがある施設数が多い傾向が見られたが、これは50代までで「仕事で関わっている」人が多いことが影響していると考えられる。
4. 施設入所に対する意識

特別養護老人ホームへの入所について73人中「できるだけ入所すべきでない」10人（13.7%）、「在宅よりも良いケアが受けられるので必要があれば入所すべき」30人（41.1%）、「施設を選ぶことができれば、入所しても良い」31人（42.5%）、「その他」2人（2.7%）であった [図II-5]。特別養護老人ホームに行った施設数によって差は見られなかった [表II-4]。

グループホームへの入所について65人中「できるだけ入所すべきでない」4人（6.2%）、「在宅よりも良いケアが受けられるので必要があれば入所すべき」26人（40.0%）、「施設を選ぶことができれば、入所しても良い」34人（52.3%）、「その他」1人（1.5%）であった [図II-5]。グループホームに行った施設数が多いほど「在宅よりも良いケアが受けられるので必要があれば入所すべき」が少なくなり「施設を選ぶことができれば、入所しても良い」が多くなっていた [表II-5]。

有料老人ホーム・ケアハウス・サービス付き高齢者住宅への入所について、62人中「できるだけ入所すべきでない」6人（9.7%）、「在宅よりも良いケアが受けられるので必要であれば入所すべき」21人（33.8%）、「施設を選ぶことができれば、入所しても良い」31人（50.0%）、「その他」4人（6.5%）
であった [図 II-5]。サービス付き高齢者住宅などに行った施設数によって差は見られなかった [表 II-6]。

表 II-4 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
特別養護老人ホーム入所に対する意識を行ったことがある施設数

<table>
<thead>
<tr>
<th>特別養護老人ホーム入所に対する意識</th>
<th>できるだけ入所すべきでない</th>
<th>在宅よりも良いケアが受けられる</th>
<th>施設を選ぶことができれば</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>0施設（特別養護老人ホームに行ったことがない）</td>
<td>1人</td>
<td>5人</td>
<td>3人</td>
<td>9人</td>
</tr>
<tr>
<td>1施設</td>
<td>2人（7.4％）</td>
<td>11人（40.7％）</td>
<td>14人（51.9％）</td>
<td>27人（100％）</td>
</tr>
<tr>
<td>2施設以上</td>
<td>3人（18.8％）</td>
<td>4人（25.0％）</td>
<td>9人（56.2％）</td>
<td>16人（100％）</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>6人（12.6％）</td>
<td>20人（38.4％）</td>
<td>26人（50.0％）</td>
<td>52人（100％）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表 II-5 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
グループホーム入所に対する意識を行ったことがある施設数

<table>
<thead>
<tr>
<th>グループホーム入所に対する意識</th>
<th>できるだけ入所すべきでない</th>
<th>在宅よりも良いケアが受けられる</th>
<th>施設を選ぶことができれば</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>0施設（特別養護老人ホームに行ったことがない）</td>
<td>1人（6.7％）</td>
<td>8人（53.3％）</td>
<td>6人（40.0％）</td>
<td>15人（100％）</td>
</tr>
<tr>
<td>1施設</td>
<td>5人（45.5％）</td>
<td>6人（54.5％）</td>
<td>11人（100％）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2施設以上</td>
<td>5人（23.8％）</td>
<td>16人（76.2％）</td>
<td>21人（100％）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>1人（2.1％）</td>
<td>18人（38.3％）</td>
<td>28人（59.6％）</td>
<td>47人（100％）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表 II-6 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
サービス付き高齢者住宅などの入所に対する意識を行ったことがある施設数

<table>
<thead>
<tr>
<th>サービス付き高齢者住宅などの入所に対する意識</th>
<th>できるだけ入所すべきでない</th>
<th>在宅よりも良いケアが受けられる</th>
<th>施設を選ぶことができれば</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>0施設（行ったことがない）</td>
<td>2人（8.0％）</td>
<td>9人（36.0％）</td>
<td>14人（64.0％）</td>
<td>25人（100％）</td>
</tr>
<tr>
<td>1施設</td>
<td>3人（30.0％）</td>
<td>7人（70.0％）</td>
<td>10人（100％）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2施設以上</td>
<td>3人</td>
<td>5人</td>
<td>8人</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>2人（4.7％）</td>
<td>15人（34.9％）</td>
<td>26人（60.4％）</td>
<td>43人（100％）</td>
</tr>
</tbody>
</table>
サービス付き高齢者住宅などで「施設を選ぶことができれば、入所しても良い」が半数あり、特別養護老人ホームやグループホームと差は見られない。

年代による差は見られなかった。いずれも介護保険をよく知っている方が「施設を選ぶことができれば、入所しても良い」が多くなっていた [表Ⅱ-7 〜Ⅱ-9]。また、グループホーム、有料老人ホーム・ケアハウス・サービス付き高齢者住宅において、認知症の介護経験のある人（「現在、家族を介護している」、「以前、家族を介護していた」、「仕事で関わっている」、「その他」の人）は、認知症の介護経験がない人に比べて「施設を選ぶことができれば、入所しても良い」が多い傾向が見られた [表Ⅱ-10〜Ⅱ-12]。

表Ⅱ-7 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
特別養護老人ホーム入所に対する意識と介護保険の認知度

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>特別養護老人ホーム入所に対する意識</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>できるだけ入所すべきでない</td>
<td>在宅よりも良いケアが受けられる</td>
</tr>
<tr>
<td>介護保険をよく知っている</td>
<td>3人 (13.6%)</td>
<td>5人 (22.7%)</td>
</tr>
<tr>
<td>知っている</td>
<td>4人 (12.1%)</td>
<td>15人 (45.5%)</td>
</tr>
<tr>
<td>あまり知らない</td>
<td>2人 (15.4%)</td>
<td>8人 (61.5%)</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>9人 (13.2%)</td>
<td>28人 (41.2%)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表Ⅱ-8 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
グループホーム入所に対する意識と介護保険の認知度

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>グループホーム入所に対する意識</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>できるだけ入所すべきでない</td>
<td>在宅よりも良いケアが受けられる</td>
</tr>
<tr>
<td>介護保険をよく知っている</td>
<td>1人 (4.8%)</td>
<td>5人 (23.8%)</td>
</tr>
<tr>
<td>知っている</td>
<td>15人 (51.7%)</td>
<td>14人 (48.3%)</td>
</tr>
<tr>
<td>あまり知らない</td>
<td>2人 (16.6%)</td>
<td>5人 (41.7%)</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>3人 (4.8%)</td>
<td>25人 (40.3%)</td>
</tr>
</tbody>
</table>
表II-9 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
サービス付き高齢者住宅などの入所に対する意識と介護保険の認知度

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>サービス付き高齢者住宅などの入所に対する意識</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>できるだけ入所すべきでない</td>
<td>在宅よりも良いケアが受けられる</td>
</tr>
<tr>
<td>介護保険をよく知っている</td>
<td>1人（6.3%）</td>
<td>3人（18.8%）</td>
</tr>
<tr>
<td>知っている</td>
<td>2人（7.1%）</td>
<td>12人（42.9%）</td>
</tr>
<tr>
<td>あまり知らない</td>
<td>2人（16.7%）</td>
<td>6人（50.0%）</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>5人（8.9%）</td>
<td>21人（37.5%）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表II-10 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
特別養護老人ホーム入所に対する意識と認知症の介護経験

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>特別養護老人ホーム入所に対する意識</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>できるだけ入所すべきでない</td>
<td>在宅よりも良いケアが受けられる</td>
</tr>
<tr>
<td>認知症の介護経験あり</td>
<td>9人（17.6%）</td>
<td>21人（41.2%）</td>
</tr>
<tr>
<td>介護をした経験がない</td>
<td>1人（5.6%）</td>
<td>8人（44.4%）</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>10人（14.5%）</td>
<td>29人（42.0%）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表II-11 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
グループホーム入所に対する意識と認知症の介護経験

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>グループホーム入所に対する意識</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>できるだけ入所すべきでない</td>
<td>在宅よりも良いケアが受けられる</td>
</tr>
<tr>
<td>認知症の介護経験あり</td>
<td>3人（6.5%）</td>
<td>16人（34.8%）</td>
</tr>
<tr>
<td>介護をした経験がない</td>
<td>1人（5.9%）</td>
<td>10人（58.8%）</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>4人（6.3%）</td>
<td>26人（41.3%）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表II-12 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
サービス付き高齢者住宅などの入所に対する意識と認知症の介護経験

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>サービス付き高齢者住宅などの入所に対する意識</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>できるだけ入所すべきでない</td>
<td>在宅よりも良いケアが受けられる</td>
</tr>
<tr>
<td>認知症の介護経験あり</td>
<td>3人（7.3%）</td>
<td>13人（31.7%）</td>
</tr>
<tr>
<td>介護をした経験がない</td>
<td>3人（20.0%）</td>
<td>7人（46.7%）</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>6人（10.7%）</td>
<td>20人（35.7%）</td>
</tr>
</tbody>
</table>
5. 自分の将来の住まい

自分自身が認知症になったら主に暮らしたい場所は69人中「自宅」24人（34.9％）、「特別養護老人ホーム」13人（18.8％）、「グループホーム」17人（24.6％）、「有料老人ホーム・ケアハウス・サービス付き高齢者住宅」14人（20.3％）、「その他」1人（1.4％）であった [図II-6]。サービス付き高齢者住宅などへの希望は自宅、グループホームに続き、特別養護老人ホームを抜いている。

年代では70代以降で「グループホーム」希望が多く、「自宅」と同数になっていた [表II-13]。

![図II-6 サービス付き高齢者住宅の意識調査: 自分が認知症になったら主に暮らしたい場所と暮らすようになると思う場所](image)

表II-13 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
自分が認知症になったら主に暮らしたい場所と年代

<table>
<thead>
<tr>
<th>年代</th>
<th>自宅</th>
<th>特別養護老人ホーム</th>
<th>グループホーム</th>
<th>サービス付き高齢者住宅等</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>50代まで</td>
<td>5人（38.4％）</td>
<td>2人（15.4％）</td>
<td>2人（15.4％）</td>
<td>4人（30.8％）</td>
<td>13人（100％）</td>
</tr>
<tr>
<td>60代</td>
<td>12人（36.4％）</td>
<td>8人（24.2％）</td>
<td>8人（24.2％）</td>
<td>5人（15.2％）</td>
<td>33人（100％）</td>
</tr>
<tr>
<td>70代以降</td>
<td>7人（31.8％）</td>
<td>3人（13.6％）</td>
<td>7人（31.8％）</td>
<td>5人（22.8％）</td>
<td>22人（100％）</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>24人（35.3％）</td>
<td>13人（19.1％）</td>
<td>17人（25.0％）</td>
<td>14人（20.6％）</td>
<td>68人（100％）</td>
</tr>
</tbody>
</table>
認知症の介護経験で、「現在、家族を介護している」「介護をした経験はない」人は自宅がもっとも多く、グループホームが続き、「以前、家族を介護していた」人は特別養護老人ホームがもっとも多く、自宅が続く [表II-14]。「以前、家族を介護していた」人はグループホームが比較的最近増加した形態であり、家族を介護していた当時なじみのある特別養護老人ホームが思い浮かべやすく、加えて現在よりも在宅サービスが整わない中で介護した経験を通して自宅よりも特別養護老人ホームを希望する人が多くなったと考えられる。

表II-14 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
自分が認知症になったら主に暮らしたい場所と認知症の介護経験

<table>
<thead>
<tr>
<th>自分が認知症になったら主に暮らしたい場所（希望）</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>自宅</td>
<td>特別養護老人ホーム</td>
</tr>
<tr>
<td>現在、家族を介護している</td>
<td>9人 (36.0%)</td>
</tr>
<tr>
<td>以前、家族を介護していた</td>
<td>7人 (35.0%)</td>
</tr>
<tr>
<td>仕事で関わっている</td>
<td>4人</td>
</tr>
<tr>
<td>介護をした経験はない</td>
<td>7人 (41.2%)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

介護保険の認知度は、介護保険をよく知っている方が自宅を希望している [表II-15]。
表II-15 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
自分が認知症になったら主に暮らしたい場所と介護保険の認知度

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>自宅</th>
<th>特別養護老人ホーム</th>
<th>グループホーム</th>
<th>サービス付き高齢者住宅等</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>よく知っている</td>
<td>11人（47.8%）</td>
<td>1人（4.3%）</td>
<td>6人（26.2%）</td>
<td>5人（21.7%）</td>
<td>23人（100%）</td>
</tr>
<tr>
<td>知っている</td>
<td>9人（30.0%）</td>
<td>8人（26.7%）</td>
<td>7人（23.3%）</td>
<td>6人（20.0%）</td>
<td>30人（100%）</td>
</tr>
<tr>
<td>あまり知らない</td>
<td>2人（16.7%）</td>
<td>3人（25.0%）</td>
<td>4人（33.3%）</td>
<td>3人（25.0%）</td>
<td>12人（100%）</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>22人（33.8%）</td>
<td>12人（18.5%）</td>
<td>17人（26.2%）</td>
<td>14人（21.5%）</td>
<td>65人（100%）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

特別養護老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者住宅などに行ったことがある施設数によって希望に差は見られなかった。希望しているから施設を見に行ったり、逆に行ったことがあるから希望するというような関係は見られない。

自分自身が認知症になったら主に暮らすことになると思う場所は65人中「自宅」11人（16.9%）、「特別養護老人ホーム」20人（30.8%）、「グループホーム」21人（32.3%）、「有料老人ホーム・ケアハウス・サービス付き高齢者住宅」11人（16.9%）、「その他」2人（3.1%）であった [図II-6]。サービス付き高齢者住宅はグループホーム、特別養護老人ホームに続いて、自宅と同数である。

自分自身が認知症になったら主に暮らしたい場所（希望）との関係を見ると、希望がもっともかなわないのは自宅であり、現実には多くが特別養護老人ホームやグループホームで暮らすことになると答えている。逆に特別養護老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者住宅などを希望していても、現実には自宅で暮らすことになると答えている人もいた [表II-16]。

年代では50代までで「自宅」が多く、「特別養護老人ホーム」が少なかった [表II-17]。
表II-16 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
自分が認知症になったら主に暮らす場所と暮らすことになると思う場所

<table>
<thead>
<tr>
<th>(希望)</th>
<th>自宅</th>
<th>特別養護老人ホーム</th>
<th>グループホーム</th>
<th>サービス付き高齢者住宅等</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>自宅</td>
<td>6人 (27.3%)</td>
<td>7人 (31.8%)</td>
<td>8人 (36.4%)</td>
<td>1人 (4.5%)</td>
<td>22人 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>特別養護老人ホーム</td>
<td>2人 (16.7%)</td>
<td>8人 (66.6%)</td>
<td>2人 (16.7%)</td>
<td></td>
<td>12人 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>グループホーム</td>
<td>1人 (6.7%)</td>
<td>2人 (13.3%)</td>
<td>10人 (66.7%)</td>
<td>2人 (13.3%)</td>
<td>15人 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>サービス付き高齢者住宅等</td>
<td>2人 (16.7%)</td>
<td>1人 (8.3%)</td>
<td>1人 (8.3%)</td>
<td>8人 (66.7%)</td>
<td>12人 (100%)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表II-17 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
自分が認知症になったら主に暮らすことになると思う場所と年代

<table>
<thead>
<tr>
<th>年齢</th>
<th>自宅</th>
<th>特別養護老人ホーム</th>
<th>グループホーム</th>
<th>サービス付き高齢者住宅等</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>50代まで</td>
<td>5人 (38.4%)</td>
<td>2人 (15.4%)</td>
<td>4人 (30.8%)</td>
<td>2人 (15.4%)</td>
<td>13人 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>60代</td>
<td>4人 (13.3%)</td>
<td>12人 (40.1%)</td>
<td>10人 (33.3%)</td>
<td>4人 (13.3%)</td>
<td>30人 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>70代以降</td>
<td>2人 (10.0%)</td>
<td>6人 (30.0%)</td>
<td>7人 (35.0%)</td>
<td>5人 (25.0%)</td>
<td>20人 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>11人 (17.5%)</td>
<td>20人 (31.7%)</td>
<td>21人 (33.3%)</td>
<td>11人 (17.5%)</td>
<td>63人 (100%)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

認知症の介護経験で、自宅を希望する人が多かった「現在、家族を介護している」「仕事で関わっている」「介護をした経験はない」人は前の2者はグループホーム、後者はサービス付き高齢者住宅などが多くなる。特別養護老人ホームを希望する人が多かった「以前、家族を介護していた」人は実際に特別養護老人ホーム暮らすことになると思うと答えた人が多い[表II-18]。

介護保険の認知度は、「よく知っている」人でグループホーム、「知っている人」で特別養護老人ホームが多くなり、「あまり知らない」人で自宅と特別養護老人ホームが同数であった[表II-19]。
表II-18 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
自分が認知症になったら主に暮らすことになると思う場所と認知症の介護経験

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>自宅</th>
<th>特別養護老人ホーム</th>
<th>グループホーム</th>
<th>サービス付き高齢者住宅等</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>現在、家族を介護している</td>
<td>4人（15.4%）</td>
<td>6人（23.1%）</td>
<td>13人（50.0%）</td>
<td>3人（11.5%）</td>
<td>26人（100%）</td>
</tr>
<tr>
<td>以前、家族を介護していた</td>
<td>2人（11.8%）</td>
<td>10人（58.8%）</td>
<td>3人（17.6%）</td>
<td>2人（11.8%）</td>
<td>17人（100%）</td>
</tr>
<tr>
<td>仕事で関わっている</td>
<td>1人</td>
<td>4人</td>
<td>1人</td>
<td>6人</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>介護をした経験はない</td>
<td>3人（20.0%）</td>
<td>3人（20.0%）</td>
<td>4人（26.7%）</td>
<td>5人（33.3%）</td>
<td>15人（100%）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表II-19 サービス付き高齢者住宅の意識調査：
自分が認知症になったら暮らすことになると思う場所と介護保険の認知度

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>自宅</th>
<th>特別養護老人ホーム</th>
<th>グループホーム</th>
<th>サービス付き高齢者住宅等</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>よく知っている</td>
<td>3人（13.6%）</td>
<td>4人（18.2%）</td>
<td>11人（50.0%）</td>
<td>4人（18.2%）</td>
<td>22人（100%）</td>
</tr>
<tr>
<td>知っている</td>
<td>4人（14.3%）</td>
<td>12人（42.8%）</td>
<td>7人（25.0%）</td>
<td>5人（17.9%）</td>
<td>28人（100%）</td>
</tr>
<tr>
<td>あまり知らない</td>
<td>3人（30.0%）</td>
<td>3人（30.0%）</td>
<td>2人（20.0%）</td>
<td>2人（20.0%）</td>
<td>10人（100%）</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>10人（16.7%）</td>
<td>19人（31.7%）</td>
<td>20人（33.3%）</td>
<td>11人（18.3%）</td>
<td>60人（100%）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

特別養護老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者住宅などに行ったことがある施設数は関係が見られなかった。

6. サービス付き高齢者住宅などに対する意見

サービス付き高齢者住宅について、「大賛成」「やむをえない」などの意見がある。「あまり高くなければ」と入居費用の心配があり、「年金でも入れるような」と年金が費用をはかる基準となっている。加えて、自宅から移り住んでも住み慣れた地域で暮らし続けることが求められていた。

施設全体としてケアの質、入所待ちの解消などの声があがっていた。サー
ビス付き高齢者住宅が登場して選択の幅が広がることを評価する意見がある一方で、施設全体として施設間格差について底上げを求める声があった［資料Ⅱ-2］。
資料II-2 サービス付き高齢者住宅の意識調査：サービス付き高齢者住宅等に対する意見（自由記入より一部抜粋）

消極的賛成
「やむをえないのでは」（70代女性、介護経験なし）
「今の時代では必要と思う。入所の待ち時間と経費を考えるすべき」（60代女性、現在家族を介護中）

賛成
「大賛成です。長生きしたいと思います。高齢者住宅を増やしていただくことを強く希望します」（70代女性、介護経験なし）
「大変良いことです。期待します」（60代女性、現在家族を介護中）

選択の幅が広がるので良い
「機能あわせた施設の選択ができるよになれば良いと思います」（50代女性、仕事で関わり）
「増えるとそれぞれニーズにあったところを選ぶことができると思う」（50代女性、以前家族を介護）

これまで住んでいた地域に欲しい
「都市部だけでなく地方にも公平にできることを望みます。高齢者なので交通面などへの考慮も欲しい」（60代女性、以前家族を介護）
「本人、家族、地域環境の状況に応じて、できるだけ近い場所に住む場所があることが望ましいと思います」（50代女性、仕事で関わり）

低価格であれば良い
「料金がよくなければ」（70代女性、介護経験なし）
「高額の支払いで入れないようなことになるのではないかと思います」（60代女性、介護経験なし）
「年金でも入るような安価な施設をお願いしたいです」（50代女性、現在家族を介護中）
「年金だけでは有料老人ホームなどの施設は入ることができないと想い。年金制度も見守る必要があると思う」（60代女性、現在家族を介護中）

サービス内容が不足
「医学的処置になると入院なのでメリットはどうなのかが疑問」（50代女性、現在家族を介護中）

サービス付き高齢者住宅だけでなく施設全体として
「施設間の格差が大きいと思います。どこでも安心して利用できるよう一定水準以上になっていればいいと思います」（60代女性、仕事で関わり）
「スタッフの教育、入居したい人が全員入れるような政策をお願いしたい」（50代女性、以前家族を介護）
「お世話をしてください方は大きですが、やさしさを入所者に忘れないでください。義務的だけではつらいです」（60代女性、現在家族を介護中）
Ⅲ．近隣の助け合い意識調査

１．調査概要

2011年4月、北海道の道南地区で、認知症介護の講演会参加者を対象にアンケート調査を行った。認知症に関心を持つ人たちが参加しており、認知症の人に対する近隣の助け合いについて意識が高いことが推測される。

アンケートは講演会資料と共に配布し、講演会終了後、出口で回収した。アンケート項目は回答者基本属性（年齢、性別）、認知症サポーター養成研修の受講、認知症の人との関わり経験、日常生活場面における認知症の人に対する手助けなどである [資料3-1]。日常生活場面における認知症の人に対する手助けは、町で困っている認知症の人に出会う3例、近所に認知症の人が住んでいる2例を設定した。町で困っている認知症の人に出会う3例は「道を歩いている人に声をかける」がもっとも手助けが難しく、「店で声をかける」「道に座り込んでいる人に声をかける」の順に手助けがしやすくなる。困っている人は認知症の人を想定しているが、認知症の人でなくてもありうる例である。認知症で近所に認知症の人が住んでいる2例は、両方とも一人暮らしであるが、一例は頼まれていない手助けであり、もう一例は離れて暮らしている家族に頼まれた場合の手助けである。

単純集計とともに、認知症サポーター養成研修の受講有無、認知症の人との関わり経験有無によって、日常生活場面における認知症の人に対する手助けの比較を行った。
2. 回答者基本属性

配布数50、回収数41、回収率82.0％であった。

回答者基本属性は男性14人（35.9%）、女性25人（64.1%）。女性が多い。
年齢は18〜84才、10代11人（28.3%）、20〜40代2人（5.1%）、50代7人（17.9%）、60代10人（25.7%）、70代7人（17.9%）、80才以上2人（5.1%）。10代の学生が3割近く、次いで60代であった[図Ⅲ-1]。

![図Ⅲ-1 近隣の助け合い意識調査：回答者基本属性（年齢）](image)

認知症サポート養成研修を受けたことがある20人（50.0%）、ない17人（42.5%）、わからない3人（7.5%）。半数が認知症サポート養成研修を受けたことがある。

認知症の人との関わりは41人中「現在、認知症の家族を介護している」14人（34.1%）、「過去に認知症の家族を介護していた」9人（22.0%）、「仕事で認知症の人と関わっている」8人（19.5%）、「その他」5人（12.2%）、「認知症の人と関わったことはない」11人（26.8%）であった[図Ⅲ-2]。「現在、認知症の家族を介護している」うちの5人、「過去に認知症の家族を介護していた」うちの1人が「仕事で認知症の人と関わって」いた。「過去に認知症の家族を介護していた」のは半年〜5年前であった。「仕事で認知症の人と関わっている」は介護職員、保健師、ケアマネジャー、施設経営者などであった。「その他」はボランティア、近所に認知症の人がいるなどであった。
3. 町で見かけた認知症の人の手助け

「夏に厚着をしているなど服装が季節はずれて、髪をつり下がって、大きな荷物を持ってどこかに向かって歩いている人を見つけたら、声をかけますか」は41人中「全く知らない人でも声をかける」18人（43.8%）、「近所に認知症の人がいるので何かあれば声をかけてください」と言われていたならば声をかける12人（29.3%）、「顔見知りの人なら声をかける」7人（17.1%）、「声をかけない」4人（9.8%）であった。

「スーパーのレジで、お金を払うのに、いくら出せば良いのかわからない人に困っている様子の人が見かけたら、声をかけますか」は41人中「全く知らない人でも声をかける」23人（56.1%）、「近所に認知症の人がいるので何かあれば声をかけてください」と言われていたならば声をかける11人（26.8%）、「顔見知りの人なら声をかける」3人（7.3%）、「声をかけない」4人（9.8%）であった。

「道にぐったりと、体の調子が悪そうにしゃがみこんでいる人を見つけたら、声をかけますか」は41人中「全く知らない人でも声をかける」37人（90.3%）、「近所に認知症の人がいるので何かあれば声をかけてください」
と言われてれば声をかける 2 人（4.9%）、「顔見知りの人なら声をかける」 1 人（2.4%）、「声をかけない」 1 人（2.4%）であった [図 III-3]。

すべての例において、認知症サポーター養成研修を受けたことがある人は、ない人に比べて「全く知らない人でも声をかける」が多かった。受けたことがない人も「全く知らない人でも声をかける」「近所に認知症の人がいるので何かあれば声をかけてください」と言われていたれば声をかけるを合わせると、すべての例で半数を超えていた [表 III-1〜III-3]。

すべての例において、認知症の人に関わった経験がある人（「現在、認知症の家族を介護している」、「過去に認知症の家族を介護していた」、「仕事で認知症の人に関わっている」、「その他」の人、以下同様）は、ない人に比べて「全く知らない人でも声をかける」が多くなっていた。関わったことがない人でも「全く知らない人でも声をかける」「近所に認知症の人がいるので何かあれば声をかけてください」と言われていたれば声をかけるを合わせると、すべての例において半数を超えていた [表 III-4〜III-6]。
表Ⅲ-1 近隣の助け合い意識調査：
町で見かけた認知症の人に手助け(1)と認知症サポーター養成研修の受講

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>夏に厚着をしているなど服装が季節はずれて、大きな荷物を持ってどこかに向かって歩いている人を見かけたら…</th>
<th>全く知らない人でも声をかける</th>
<th>「声をかけてください」と言われていれば声をかける</th>
<th>頗見知りの人なら声をかける</th>
<th>声をかけない</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>研修を受けたことがある</td>
<td>12人 (60.0%)</td>
<td>5人 (25.0%)</td>
<td>2人 (10.0%)</td>
<td>1人 (5.0%)</td>
<td>20人 (100%)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ない</td>
<td>4人 (23.5%)</td>
<td>6人 (35.4%)</td>
<td>4人 (23.5%)</td>
<td>3人 (17.6%)</td>
<td>17人 (100%)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>わからない</td>
<td>2人</td>
<td>1人</td>
<td></td>
<td></td>
<td>3人</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>18人 (45.0%)</td>
<td>12人 (30.0%)</td>
<td>6人 (15.0%)</td>
<td>4人 (10.0%)</td>
<td>40人 (100%)</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

表Ⅲ-2 近隣の助け合い意識調査：
町で見かけた認知症の人に手助け(2)と認知症サポーター養成研修の受講

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>スーパーのレジで、お金を払うのに、いくら出せば良いのかわからずに困っている様子の人に見かけたら…</th>
<th>全く知らない人でも声をかける</th>
<th>「声をかけてください。」と言われていれば声をかける</th>
<th>頗見知りの人なら声をかける</th>
<th>声をかけない</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>研修を受けたことがある</td>
<td>15人 (75.0%)</td>
<td>3人 (15.0%)</td>
<td>1人 (5.0%)</td>
<td>1人 (5.0%)</td>
<td>20人 (100%)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ない</td>
<td>6人 (35.3%)</td>
<td>7人 (41.1%)</td>
<td>2人 (11.8%)</td>
<td>2人 (11.8%)</td>
<td>17人 (100%)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>わからない</td>
<td>1人</td>
<td>1人</td>
<td></td>
<td></td>
<td>3人</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>22人 (55.0%)</td>
<td>11人 (27.5%)</td>
<td>3人 (7.5%)</td>
<td>4人 (10.0%)</td>
<td>40人 (100%)</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
表Ⅲ-3 近隣の助け合い意識調査：
町で見かけた認知症の人の手助けと認知症サポーター養成研修の受講

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>道にぐったりと、体の調子が悪そうにしゃがみこんでいる人を見かけたら…</th>
<th>全く知らない人でも声をかける</th>
<th>「声をかけてください」と言われていれば声をかける</th>
<th>順見知りの人なら声をかける</th>
<th>声をかけない</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>研修を受けたことがある</td>
<td>20人 (100%)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>20人 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>ない</td>
<td>15人 (88.2%)</td>
<td>1人 (5.9%)</td>
<td>1人 (5.9%)</td>
<td></td>
<td></td>
<td>17人 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>わからない</td>
<td>15人</td>
<td>1人</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>3人</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>37人 (92.5%)</td>
<td>1人 (2.5%)</td>
<td>1人 (2.5%)</td>
<td>1人 (2.5%)</td>
<td></td>
<td>40人 (100%)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表Ⅲ-4 近隣の助け合い意識調査：
町で見かけた認知症の人の手助けと認知症の人と関わった経験

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>夏に厚着をしていること、頭を傾げて、大きな荷物を持ってどこかに向かって歩いている人を見かけたら…</th>
<th>全く知らない人でも声をかける</th>
<th>「声をかけてください」と言われていれば声をかける</th>
<th>順見知りの人なら声をかける</th>
<th>声をかけない</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>認知症の人と関わら</td>
<td>17人 (56.7%)</td>
<td>7人 (23.3%)</td>
<td>5人 (16.7%)</td>
<td>1人 (3.3%)</td>
<td></td>
<td>30人 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>ったことはない</td>
<td>1人 (9.1%)</td>
<td>5人 (45.4%)</td>
<td>2人 (18.2%)</td>
<td>3人 (27.3%)</td>
<td></td>
<td>11人 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>18人 (45.0%)</td>
<td>12人 (30.0%)</td>
<td>7人 (15.0%)</td>
<td>4人 (10.0%)</td>
<td></td>
<td>41人 (100%)</td>
</tr>
</tbody>
</table>
表III-5 近隣の助け合い意識調査：
町で見かけた認知症の手助け(2)と認知症の人に関わった経験

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>全く知らない 人でも声をかける</th>
<th>「声をかけて ください」と言われていれば声をかける</th>
<th>顔見知りの人 なら声をかける</th>
<th>声をかけない</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>認知症の人と 関わりあり</td>
<td>23人（76.7%）</td>
<td>5人（16.7%）</td>
<td>1人（3.3%）</td>
<td>1人（3.3%）</td>
<td>30人（100%）</td>
</tr>
<tr>
<td>関わったことはない</td>
<td>23人（56.1%）</td>
<td>6人（54.5%）</td>
<td>2人（18.2%）</td>
<td>3人（27.3%）</td>
<td>11人（100%）</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>46人（56.1%）</td>
<td>11人（26.8%）</td>
<td>3人（7.3%）</td>
<td>4人（9.8%）</td>
<td>41人（100%）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表III-6 近隣の助け合い意識調査：
町で見かけた認知症の手助け(3)と認知症の人に関わった経験

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>道にくったりと、体の調子が悪そうにしゃがみこんでいる人を見かけたら…</th>
<th>全く知らない人でも声をかける</th>
<th>「声をかけてください」と言われていれば声をかける</th>
<th>顔見知りの人なら声をかける</th>
<th>声をかけない</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>認知症の人と 関わりあり</td>
<td>29人（96.7%）</td>
<td>1人（3.3%）</td>
<td>1人（3.3%）</td>
<td>1人（9.1%）</td>
<td>30人（100%）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>関わったことはない</td>
<td>8人（72.7%）</td>
<td>1人（9.1%）</td>
<td>1人（9.1%）</td>
<td>1人（9.1%）</td>
<td>11人（100%）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>37人（90.3%）</td>
<td>2人（4.9%）</td>
<td>1人（2.4%）</td>
<td>1人（2.4%）</td>
<td>41人（100%）</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
4. 近所に住んでいる認知症の人に対する手助け

近所に、顔見知り（友人ではなく近所づきあい程度）の高齢者が一人暮らしをしています。最近、ゴミ出しを間違えたり、回転板を回さなかったり、挨拶してもぼんやりしていたり、様子がおかしけりました。「認知症ではないか」と思いますか、あなたはどう思いますかという例は35人中「民生委員に知らせる」23人（65.7%）、「その他」8人（22.9%）、「何もしない」4人（11.4%）であった [図Ⅲ-4]。「その他」は「声をかけて話してみる」「地域包括支援センターなどに知らせる」などであった。「何もしない」理由は、「認知症かどうかわからない」「相手の機嫌を損ねてしまうかもしれない」などであった。

図Ⅲ-4 近隣の助け合い意識調査：
近所に住んでいる認知症の人に対する手助け(1)

認知症サポーター養成研修を受けたことがある人は、ない人に比べて「民生委員に知らせる」が多くなっていた。しかし、受けたことがない人も「民生委員に知らせる」が半数を超えていた [表Ⅲ-7]。

認知症の人と関わった経験がある人は、ない人に比べて「民生委員に知らせる」が多くなっていた。関わったことがない人で「民生委員に知らせる」は4割であった [表Ⅲ-8]。
表III-7 近隣の助け合い意識調査：
近所に住んでいる認知症の人に対する手助け（1）と認知症サポーター養成研修の受講

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>民生委員に知らせる</th>
<th>そ の 他</th>
<th>何もしない</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>研修を受けたことがある</td>
<td>14人 (73.7%)</td>
<td>5人 (26.3%)</td>
<td></td>
<td>19人 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>ない</td>
<td>7人 (58.3%)</td>
<td>2人 (16.7%)</td>
<td>3人 (25.0%)</td>
<td>12人 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>わからない</td>
<td>2人</td>
<td>1人</td>
<td></td>
<td>3人</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>23人 (67.7%)</td>
<td>8人 (23.5%)</td>
<td>3人 (8.8%)</td>
<td>34人 (100%)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表III-8 近隣の助け合い意識調査：
近所に住んでいる認知症の人に対する手助け（1）と認知症の人と関わった経験

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>民生委員に知らせる</th>
<th>そ の 他</th>
<th>何もしない</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>認知症の人と関わりあり</td>
<td>19人 (76.0%)</td>
<td>5人 (20.0%)</td>
<td>1人 (4.0%)</td>
<td>25人 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>関わったことはない</td>
<td>4人 (40.0%)</td>
<td>3人 (30.0%)</td>
<td>3人 (30.0%)</td>
<td>10人 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>23人 (10.7%)</td>
<td>8人 (35.7%)</td>
<td>4人 (53.6%)</td>
<td>35人 (100%)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

近所に、顔見知り（友人ではなく近所づきあい程度）の認知症の人が一人暮らしをしていて、ヘルパーーやデイサービスを利用しています。家族は1ヶ月に一度くらい尋ねてきます。その家族に手助けを頼まれました。どこまでなら手助けしますか。家族に頼まれた場合、あなたがとても良いと思うものは、38人中「知らない人が頻繁にくるなど、詐欺にあっているかもしれないと思ったら家族やヘルパーなどに知らせる」29人 (76.3%)、「いつも取り込まれている新聞がそのままになっていたら、認知症の人に行をかける」28人 (73.7%)、「冬の道の雪かき」24人 (63.2%)、「ヘルパーがまとめていったゴミを、朝にゴミ収集場所に出してあげる」18人 (47.4%)、「サービス利用
がない日に、訪問して話し相手になる」8人（21.1%）、「認知症の人の散歩に付きそう」8人（21.1%）であった [図III-5]。「どの手助けもしないため」という人はいなかった。

図III-5 近隣の助け合い意識調査：
近所に住んでいる認知症の人のに対する手助け(2)

認知症サポート養成研修の受講による差は見られなかった [表III-9]。認知症の人と関わった経験のある人で「いつも取り込まれている新聞がそのままになっていたら、認知症の人に声をかける」「サービス利用がない日に、訪問して、話し相手になる」「認知症の人の散歩に付きそう」という認知症の人に関することへの割合が高い傾向が見られた [表III-10]。「冬の道の雪かき」は認知症サポート養成研修を受けていなかったり、認知症の人に関わったことがない方が手助けをする人が多かった [表III-9、III-10]。
表Ⅲ-9 近隣の助け合い意識調査：
近所に住んでいる認知症の人に手助けを(2)と認知症サポート養成研修の受講

<table>
<thead>
<tr>
<th>認知症サポート養成研修の受講</th>
<th>研修を受けたことがある</th>
<th>ない</th>
<th>わからない</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>19人</td>
<td>14人 (73.7%)</td>
<td>13人 (86.7%)</td>
<td>1人</td>
</tr>
<tr>
<td>新聞がそのままだった声をかける</td>
<td>15人 (78.9%)</td>
<td>12人 (80.0%)</td>
<td>1人</td>
</tr>
<tr>
<td>冬の道の雪かき</td>
<td>10人 (52.6%)</td>
<td>12人 (80.0%)</td>
<td>2人</td>
</tr>
<tr>
<td>まとめてあるゴミを、朝出してあげる</td>
<td>8人 (42.1%)</td>
<td>9人 (60.0%)</td>
<td>1人</td>
</tr>
<tr>
<td>訪問して話し相手になる</td>
<td>5人 (26.3%)</td>
<td>3人 (20.0%)</td>
<td>0人</td>
</tr>
<tr>
<td>認知症の人の散歩に付きそう</td>
<td>4人 (21.1%)</td>
<td>3人 (20.0%)</td>
<td>1人</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表Ⅲ-10 近隣の助け合い意識調査：
近所に住んでいる認知症の人に手助けを(2)と認知症の人と関わった経験

<table>
<thead>
<tr>
<th>認知症サポート養成研修の受講</th>
<th>認知症の人と関わりあり</th>
<th>関わったことはない</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>27人</td>
<td>21人 (77.8%)</td>
<td>8人 (72.7%)</td>
</tr>
<tr>
<td>新聞がそのままだった声をかける</td>
<td>22人 (81.5%)</td>
<td>6人 (54.5%)</td>
</tr>
<tr>
<td>冬の道の雪かき</td>
<td>15人 (55.6%)</td>
<td>9人 (81.8%)</td>
</tr>
<tr>
<td>まとめてあるゴミを、朝出してあげる</td>
<td>13人 (48.1%)</td>
<td>5人 (45.5%)</td>
</tr>
<tr>
<td>訪問して話し相手になる</td>
<td>7人 (25.9%)</td>
<td>1人 (9.1%)</td>
</tr>
<tr>
<td>認知症の人の散歩に付きそう</td>
<td>7人 (25.9%)</td>
<td>1人 (9.1%)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

前項の近隣に住んでいる認知症の人に手助けの例と比較すると、こちらは認知症サポーター養成研修、認知症の人との関わりによる差があまり見られない。前項は自分で判断して民生委員に知らせるなどの「頼まれていない手助け」であり、こちらは「離れて住んでいる家族に頼まれた手助け」である。手助けを頼まれれば認知症サポーター養成研修を受けたことがなかったり、認知症の人と関わったことがない人も手助けをすると考える。
5. 介護保険と近隣の助け合い

介護保険と近隣の助け合いについて、「認知症の人はもっと介護保険などの公のサービスがすべきだと思う（そのためなら税金や介護保険料は今よりも高くなっても良い）」7人（17.9％）、「今くらいで良いと思う」8人（20.5％）、「近所の助け合いを、今よりも、もっとできることがあると思う」22人（56.5％）、「わからない」2人（5.1％）であった。半数以上の人が近隣の助け合いがもっとできると思うと答えている [図III-6]。

図III-6 近隣の助け合い意識調査：介護保険と近隣の助け合い

認知症サポーター養成研修の受講、認知症の人との関わりによる差は見られなかった。町で見かけた認知症の人に手助け、近所に住んでいる認知症の人に手助けによる差は見られなかった。認知症の人との関わり、手助けをする意識などによって、近所の助け合いを求める度合いが異なるわけではない。

自由記入では、認知症の人や家族が安心して暮らすために、認知症に対する多くの人たちの理解が必要とされ、公的サービス、近隣の助け合いの両面から充実を求める声があがっていた [資料III-2]。
資料Ⅲ-2 近隣の助け合い意識調査：安心して暮らすために必要なもの（自由記入より一部抜粋）

認知症に対する多くの人の理解
「家族の方が認知症という病気が正しく理解できるように活動することと。認知症の方に対し、その人の思いを正しく理解しようとすること」（50代女性、仕事で関わる）
「認知症の知識がない人がまだ多い。核家族の現代、若い世代にもっと勉強する場を提供してほしい」（70代女性、以前家族を介護）
「認知症に対する理解。認知症という言葉だけが一人歩きしているようて、騒がれているわりにあまり病気のことを知らない人が多い」（50代女性、以前家族を介護）
「正しい知識」（70代女性、以前家族を介護）

サービスの充実
「公共のサポート」（10代男性、関わり経験なし）
「認知症の人や家族の希望にそったサービスがもう少し自由に選択できるようにして欲しい。本来はそうだったはずです」（50代男性、仕事で関わる）
「公的サービス、施設の充実と利用しやすい価格」（50代女性、現在家族を介護中）

もっと近隣の助け合いを
「隣近所の助け合い、認知症に対しての理解、認知症になるとだんだん遠くなり、隣近所の挨拶がない」（80代男性、現在家族を介護中）
「各町会のなかに福祉委員会が設置され、各委員は世話する対象者を数名かかえているが、その組織をもっと拡大して、地域包括ケアとして取り組んでいくべきと思います」（80代男性、過去に仕事で関わる）
「サービスも使いながら、近所の人たちに少しでもいいから協力する仕組みを始めた方が良いと思う」（10代女性、関わり経験なし）
IV. まとめ

サービス付き高齢者住宅について、賛成、消極的賛成、条件付き賛成の意見があるが反対意見はなかった。条件付きは入居費用が年金でまかなえること、住み慣れた地域で暮らし続けることなどであった。

サービス付き高齢者住宅と有料老人ホーム・ケアハウスを合わせて、「施設を選ぶことができれば入所しても良い」と答える人が半数を超えていた。特別養護老人ホームやグループホームと差は見られず、同様に選択する施設の一つとしてとらえられていることがわかる。

サービス付き高齢者住宅は、有料老人ホーム・ケアハウスを合わせてでも行ったことがない人が半数を超えており、一般的なイメージで評価されていると考えられる。グループホームは比較的複数の施設に行ったことがあり、行った施設数が多いほど「施設を選ぶことができれば入所しても良い」と答える人が多いことから、サービス付き高齢者住宅においても行って体験するようになれば施設間格差などが実感されていくことになると考える。

自分自身が認知症になった時に主に暮らしたい場所は自宅が多いが、グループホームに次いで、サービス付き高齢者住宅などがあり、特別養護老人ホームよりも希望者が多い。現実に暮らすようになると思う場所でサービス付き高齢者住宅をあげる人は少ないが、介護保険を「よく知っている」、「現在、家族を介護している」「仕事で関わっている」人が比較的最近増加した形態であるグループホームをあげ、介護保険を「知っている」、「以前家族を介護していた」人が以前からなじみのある特別養護老人ホームをあげているように、サービス付き高齢者住宅などが普及してなじみのある形態になれば、現実に暮らす場所として思い浮かぶようになるのではないかと考える。

サービス付き高齢者住宅に賛成する理由の一つとして選択の幅が広がることがあげられていた。入所待ちが続き、入居費用が高額で施設を選べない現状の解消が求められており、多様なサービス付き高齢者住宅がこのような声に応えていくことができれば、超高齢社会の不安の軽減につながると考えられる。
れる。

近隣の助け合いは、半数以上の人があく、「近所の助け合いで、今よりも、もっとできることがあると思う」と答えていた。

認知症サポーター養成研修を受けたことがあったり、認知症の人に関わったことがある人は、ない人に比べて、手助けをする傾向が見られた。認知症サポーター養成研修や認知症の人と関わる経験が、認知症の人に対する手助けにつながることがわかる。

認知症サポーター養成研修を受けたことがなかったり、認知症の人に関わったことがない人も、「近所に認知症の人がいるので何かあれば声をかけてください」と言われていたり、離れて暮らしている家族に手伝いを頼まれたりすれば手助けをする人が増える。認知症であることを告げ、依頼することが手助けにつながる。

認知症サポーター養成研修や認知症の人と関わる機会、認知症であることを見つけていくことなどを通して、近隣の助け合いの輪を広げていくことができると考える。

認知症の人と家族が安心して暮らすために、近隣の助け合いと公的サービス関係の充実がさせる声があり、認知症に対する多くの人の理解が必要という意見があった。

前報において認知症についてよく理解している人の方が不安を感じており、認知症の人と関わって困った経験が不安に影響していることが考えられた1）。この困った経験を話し手助けを依頼していくことが、近隣の助け合いにつながり、認知症の人と関わる機会を増やすことで認知症に対する理解が生まれ、さらに助け合いが進んでいく相乗効果が考えられる。超高齢社会における不安を皆のものにしていくことが、近隣の助け合いの輪を広げるなど、安心できる社会に近づく一歩となる。
文献
1）大橋美幸：超高齢社会における「不安」の構造 ー 認知症意識調査より、函館大学論究 第42輯、2011
2）国土交通省報道発表資料、高齢者の居住の安定確保に関する法律等の一部を改正する法律案について、2011.2.8
3）厚生労働省「認知症を知り地域をつくるキャンペーン」認知症サポーター100万人キャンペーン 認知症サポーター養成講座基準、NPO法人地域ケア政策ネットワーク
資料II-1 サービス付き高齢者住宅の意識調査：アンケート用紙

問1 あなたの性別に○をつけて、（ ）内に年齢を記入してください。
男性・女性 （ ）歳

問2 認知症の人の介護経験についてあてはまるものにすべて○をつけて（ ）にお答えください。
1. 現在、家族を介護している → 誰を（ ）どこで（在宅・施設・両方）
2. 以前、家族を介護していた → 誰を（ ）どこで（在宅・施設・両方）
3. 仕事で関わっている → 職種（ ）
4. その他（ ）
5. 介護をした経験はない

問3 介護保険サービスを知っていますか。1つに○をつけてください。
1. よく知っている（利用したことがあるまたは仕事で関わっていたことがある）
2. 知っている
3. あまり知らない

問4 見学したり、入居や短期入所を利用したことがある（デイサービス利用を除きます）。
または、仕事で入居や短期入所に関わったことのある施設の数をお尋ねします。
※同じ施設を何度も利用している場合は1施設とお答えください。

特別養護老人ホーム は これまでに（ ）施設
グループホーム は これまでに（ ）施設
有料老人ホーム・ケアハウス・サービス付き高齢者住宅 は これまでに（ ）施設

問5 特別養護老人ホームの入所について、どう思いますか。1つに○をつけてください。
1. できるだけ入所すべきでない
2. 在宅よりも良いケアが受けられるので必要であれば入所すべき
3. 施設を選ぶことができれば、入所しても良い
4. その他（ ）

問6 グループホームへの入所について、どう思いますか。1つに○をつけてください。
1. できるだけ入所すべきでない
2. 在宅よりも良いケアが受けられるので必要であれば入所すべき
3. 施設を選ぶことができれば、入所しても良い
4. その他（ ）
問7 有料老人ホーム・ケアハウス・サービス付き高齢者住宅の入所について、どう思いますか。1つに○をつけてください。
1. できるだけ入所すべきでない
2. 在宅よりも良いケアが受けられるので必要であれば入所すべき
3. 施設を選ぶことができれば、入所しても良い
4. その他（ ）

問8 あなたが認知症になったら、主にどこで暮らしたいですか（希望）。1つに○をつけてください。
1. 自宅
2. 特別養護老人ホーム
3. グループホーム
4. 有料老人ホーム・ケアハウス・サービス付き高齢者住宅
5. その他（ ）

問9 あなたが認知症になったら、実際に主にどこで暮らすことになると思いますか（現実）。1つに○をつけてください。
1. 自宅
2. 特別養護老人ホーム
3. グループホーム
4. 有料老人ホーム・ケアハウス・サービス付き高齢者住宅
5. その他（ ）

問10 今後、介護保険では、施設ではなく有料老人ホーム・ケアハウス・サービス付き高齢者住宅を増やすことが考えられています。どのように思われますか。ご意見をお書きください。

問11 その他、介護保険サービスや施設などについて、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。
資料III-1 近隣の助け合い意識調査：アンケート用紙

問1 あなたの性別に○をつけて、年齢をお書きください。
男性・女性 （ ）歳

問2 認知症サポート研修を受けたことがありますか（オレンジリングを持っていますか）。
1. はい  2. いいえ  3. わからない

問3 認知症の人と関わったことがありますか。あてはまるものにすべて○をつけてください。
1. 現在、認知症の家族を介護している
2. 過去に認知症の家族を介護していた → （ ）年前
3. 仕事で認知症の人と関わっている → （職種： ）
4. その他（  ）
5. 認知症の人と関わったことはない

問4 町で困っている認知症の人の見かけたら、声をかけますか。それぞれ1つに○をつけてください。
(1) 夏に厚着をしているなど服装が季節はずれて、髪をふりみだして、大きな荷物を持ってどこかに向かって歩いている人を見かけたら、声をかけますか
1. 全く知らない人でも声をかける
2. 「近所に認知症の人がいるので何かあれば声をかけてください」と言われていれば声をかける
3. 顔見知りの人なら声をかける
4. 声をかけない

(2) スーパーのレジで、お金を払うのに、いくら出せば良いのかわからずに困っている様子の人が見かけたら、声をかけますか
1. 全く知らない人でも声をかける
2. 「近所に認知症の人がいるので何かあれば声をかけてください」と言われていれば声をかける
3. 顔見知りの人なら声をかける
4. 声をかけない

(3) 道にぐったりと、体の調子が悪いようにしゃがみこんでいる人を見かけたら、声をかけますか
1. 全く知らない人でも声をかける
2. 「近所に認知症の人がいるので何かあれば声をかけてください」と言われていれば声をかける
3. 顔見知りの人なら声をかける
4. 声をかけない
問5 近所に、顔見知り（友人ではなく近所つきあい程度）の高齢者が一人暮らしをしている。最近、ゴミ出しを間違えたり、回収板を回さなかったり、挨拶してもほとんどしていなかったり、様子がおかしくなりました。「認知症ではないか」と思いますか、あなたはどう思いますか。1つに○をつけてください。
1. 民生委員に知らせる
2. その他（ ）
3. 何もしない →（何もしない理由は ）

問6 近所に、顔見知り（友人ではなく近所つきあい程度）の認知症の人が一人暮らしをしています。ヘルパーでデイサービスを利用しています。家族は1ヶ月に一度くらい訪ねてきます。その家族に手助けを頼まれました。どこまで手助けしますか。家族に頼まれた場合、あなたがしても良いと思うもののすべてに○をつけてください。
1. 冬の道の雪かき
2. 知らない人が頻繁にくるなど、詐欺にあっているかもしれないと思ったら、家族やヘルパーなどに知らせる
3. いつも取り込まれている新聞がそのままになっていたら、認知症の人に声をかける
4. ヘルパーがまとめていったゴミを、朝にゴミ収集場所に出してあげる
5. サービス利用がない日に、訪問して話し相手になる
6. 認知症の人の散歩に付きそう
7. どの手助けもしたくない

問7 介護保険と近所の助け合いについてどう思いますか。1つに○をつけてください。
1. 認知症の人のは、もっと介護保険などの公のサービスがすべきだと思う（そのためなら税金や介護保険料は今よりも高くなっても良い）
2. 今くらいで良いと思う
3. 近所の助け合い、今よりも、もっとできることがあると思う
4. わからない

問8 認知症の人や家族が安心して暮らすために、何か必要だと思うと思いますか。意見をお書きください。

（ ）

ご協力ありがとうございました。